平成２２年１０月２６日

地域公共交通活性化富山県連絡会における報告項目

北陸鉄道株式会社
取締役自動車部長　宮岸武司

１、石川県内における北陸鉄道バスグループの営業展開
北陸鉄道を中心にグループ７社で石川県内の公共交通をカバー　資　料

２、北陸鉄道の経営状況
・地方におけるバス利用者は依然として下げ止まらない
マイカーの増加とそれに便利な街づくり（郊外化）の結果
・分社化で路線と経営を維持
・希望退職による人員削減と大幅な賃金カットで多額の赤字経営から脱却
以後、１０期連続で黒字経営を続けているが、無配の状態

３、規制緩和の弊害
・Ｈ１２年に貸切、Ｈ１４年に乗合が規制緩和
・貸切は供給過剰の中で運賃ダンピングが続き、単価、稼働率ともに減少
・乗合は運賃の自由化により、低廉化の苦悩
１００円運賃ありきの疑問、コミュニティーバスの影響

地方のバス事業は衰退産業であり、自由化で成り立つものではない
（ネットワークの崩壊、不採算エリアでの利便低下が進むだけ）

４、バス活性化への取り組み
・都市新バスシステムの導入（Ｓ５９年１１月）
・ＩＣカード（アイカ）の導入（Ｈ１６年１２月）
・城下まち周遊（Ｈ１２年７月）と兼六園シャトル（Ｈ２０年７月）の運行

５、ダイヤ改正について
年に１～2 回のダイヤ改正を実施

概要作成（２ヵ月）→労働組合へ提案（１ヵ月）→
ダイヤ編成・行路作成・車両運用（２ヵ月）→申請・届出（１ヵ月）→
組合・職場と協議（１ヵ月）→アイカやバスロケデータ作成（１ヵ月）→
時刻表作成・事前公示（１ヵ月）
の手続きを経て、実施に至るまで通常約９ヵ月必要

６、行政の方々への意見・要望
・行き過ぎた規制緩和の是正（参入や運賃への規制は必要）
・大規模施設およびＰ＆Ｒ駐車場を主要バス路線や鉄道沿線へ計画的に配置
・バス走行環境の向上（バス専用レーン拡大、タクシー違法駐車排除）
・契約貸切輸送やコミュニティーバス発注の際は、低価格だけを判断基準にせず、安全や利便性、緊急時対応能力等を総合的に評価

〇配布パンフレット
・アイカ「ご利用案内」
・城下まち金沢周遊バス
・身近なバスで小さな旅
・高速バス「金沢⇔高岡線」
・路線バスで「魅力満載の白山麓へ」